

観測部月報

★

東亞天文協會

★ 流星課だより (93)

小 楨 孝 二 郎

夏もいよいよ盛である。だが炎暑の日中に比して夜は極樂郷、天體観測には絶好である。流星もいよいよシーズンに入つて其の數を増してくる。

上旬のペルセウス群は六月よりつゞいて幾分其の活動を見せるであらうが、流星數の多くなるのは中旬以後である。ペルセウス流星群の先驅もポツポツ出現するが、顯著なのは下旬の水瓶座 δ 流星群である。本年は31日が満月にあたるのであまり都合のよい方ではないが、観測時間を適當に選ぶならば29日朝までは月光を避けて輻射點を追跡することは出来る。

× × × × ×

前同發表後到着した観測報告は次の通りである。

吉井耕一氏 (一,二,三,四月分)

石原昭氏 (三月分)

島崎光治氏 (三月分)

金子榮氏 (一月分)

吉井氏のものには琴座流星群活動期の観測があるが、琴座群に屬するものは全く見當らない。五月上旬の水瓶座 δ 流星群は天候其他の關係で出来なかつたのは観測報告は未だ來てゐない。(六月1日)

★ 太陽課 (1939年5月)

報告者 11名 (前月2名減)

課員近況 坂上氏は學業上5,6兩月観測地と器械を變更。島崎光治氏は大阪に移住、多忙の爲め一時中止。千葉氏は病氣の爲め一時中止、快癒の上再開を鶴首して待つて居る。代つて新しく報告された人として小石久太郎氏(東京市神田區神田1番地)58mm屈折58倍直視と、中野繁氏の再開始(遊星面課員)慈恵醫大在學、現住 東京市大森區雪ヶ谷)を迎へた。今後の永續を望む。

天候 個々の觀測日數から見れば、前月より成績は上つたが、曇れば全國の場合が多かつた爲めか、全員で補つても、7, 12, 23, と、3日の缺測日が生じたのは遺憾であつた。

概況 素晴らしい活況を呈した。前月よりも更に10%内外平均相對數が増加して、殆んど1938年7月に迫る程であつた（1938年7月 161.1, 8月 129.1）。一部に傳へられて居る今期の最盛は既に過ぎた（1938年夏を指す）と云ふのが正しいか、否か、次月の結果は注目に値する。（上記は假りに木邊の値に依る）

肉眼的黒點	坂上	津留	正村	岡村	木邊	合計
觀測日數	24	10	14	13	7	68
出現日數	16	6	5	4	0	31
黒點群數	6	2	3	2	0	6
黒點群累計數	23	7	5	5	0	40

望遠鏡に依る相對數の激増に反して、割合に淋しかつたのは肉眼的黒點であつた。平均には依る觀測日に對する出現日數は0.46"であつて、前月よりも明かに減少した。正確な表示とは云へないまでも、本月は比較的小黒點が多かつた様である。黒點の總面積をば、寫眞的に計測すればともかく、相對數が假りに同じだとしても、肉眼的黒點に多少の差があれば其の活動の優劣はほぼ判定出來そうである。此の點可なり興味が生ずる。

南北兩半球の比較	津留	木邊	沓掛	阿部
南	39.6	77.3	52.1	58.4
北	48.7	73.6	74.0	60.5

本月は比較的揃つた方である。津留、木邊、沓掛、阿部氏4名の平均に依れば、やゝ北に多く、南1.00に對する北1.04即ち南49%北51%の割合であつて、殆んど平分に近い。（註。報告者は各自に南北各別の平均値を出して欲しい）

各群中特異なものとしては、沓掛氏の測定に従へば、9日に始めて東半球に見られた一群が、南1°と云ふ殆んど赤道上に出現した。反對に緯度の高い方では、同じく同氏の測定に依れば、南北共に25°を越すものはなかつたやうである。

其他 例月通り沓掛氏より觀測全黒點群の緯度の報告あつた。

黒點群の緯度觀測者の爲めにP.B.L.の値（説明は天文年鑑参照）を示すと

太陽 黒點相對數報告 (1939年5月)

觀測者(觀測地)	坂上 務(福岡市大名町)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	岡村 一郎(大崎市明星商業)	木邊 成磨(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市溝旗町)	大石 辰次(靜岡縣吉永村)	沓掛 七二(長野縣青木村)	すばる會(橫濱市)	中野 繁(東京市大森區)	片山 八郎(東京市立一中)	小石久太郎(東京市神田區)	阿部 正明(東京市池袋)
口徑 mm	40	32	76	75	25	55	102	50	50	50	58	50
倍率	32	50	54	60	48	64	75	50	55	32	64	45
1	171	110	161	222	139	127	雲	(報 告 未 着)	機械修理	雲	雲雨	雲
2	旅	114	121	271	雨	129	188		125	111	123	175
3	112	119	148	204	111	雲	缺		101	132	114	131
4	119	87	142	189	99	134	236		97	缺	88	169
5	121	雲	181	110	雲	99	189		雲雨	雲雨	雲雨	145
6	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲		109	77	71	雲
7	129	56	97	缺	76	82	115		112	缺	80	91
8	101	雲	97	缺	87	雲	141		雲雨	雲雨	87	108
9	93	79	缺	152	雲雨	雲	雲		雲雨	雲雨	雲	雨
10	雲	雲雨	112	雲雨	雲雨	雲	雲		161	雲	106	雲
11	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	(報 告 未 着)	130	161	60	雲
12	124	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雨	64	72	127
13	126	雲	雲	雲	雲	雲	雲		92	雲	84	101
14	104	雲	雲	雲	雲	雲	雲		75	74	81	87
15	86	雲	雲	雲	雲	雲	雲		52	90	缺	74
16	103	56	115	125	74	105	152		37	缺	46	104
17	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲		61	74	47	雨
18	94	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲雨	雲雨	雲	雲
19	93	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
20	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
21	75	旅	雲	雲	雲	雲	雲	(報 告 未 着)	87	101	121	77
22	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲		缺	81	雲	91
23	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
24	86	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
25	85	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
26	126	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
27	旅	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
28	128	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
29	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
30	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
31	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲		雲	雲	雲	雲
觀測日數	20	10	13	23	13	17	17	—	12	11	15	15
一日平均	111	83	123	151	83	104	146	—	90	99	85	123
前月平均	132	84	125	132	76	99	131	115	—	82	—	105

坂上氏：福岡市大名町4丁目大乘寺内に移轉。器械も變更す。右に依り
本月は稍不確の山。

	P _o	B _o	I _o		P _o	B _o	I _o
7月1日	-3.1	+2.9	88.3	8月19日	+17.1	+6.8	167.1
10	+1.0	+6.3	292.3	29	+20.1	+7.1	28.0
20	+5.5	+4.8	196.8	9 8	+22.9	+7.2	256.0
30	+9.7	+5.6	64.6	18	+24.5	+7.1	137.1
8 9	+13.6	+6.3	292.3	28	+25.8	+6.9	351.9

(木邊)

★ 變光星課

1939年4月の報告者と目測數

氏名	沓掛七二	小澤喜一	坂上務	山田達雄	清水直次	岡林滋樹	木邊成磨	合計6名
觀測星數	8	32	1	3	2	8	33	61
目測數	8	195	1	5	4	18	220	451

内譯 第二部

沓掛	小澤	岡林	木邊	合計
7	31	1	26	42
7	193	1	191	392

追加報告 3月分, 山田氏より5星21目測, 岡林氏より1目測受理。

概報 色々の理由もあらうが, 近時メツキリ觀測者が減少した。然し岡林氏が倉敷で觀測を開始された事を喜ぶ。今後, 觀測は勿論, 整理の方も手傳つていたゞいて, 報告も第一部だけでも毎月目測光度をのせる様にし度い。出來れば來月から行ふ。

略報. 第一部 R CrB 8.5~9.5 を上下して居る (沓掛 1, 岡林 4, 木邊 7)。

5月に入つても此の状態を繼續して居る。其他略。

第二部 2 Max X Leo, CZ Ori, SU UMa.

1 Max Z Cam, AY Lyr, CY Lyr, TZ Per, 其他略。(以上, 小澤, 木邊)

★ 遊星面課

★ 7月中火星要素表 ★ (日本中央標準時 9^h の値)

日付	光度	視直徑	虧ケ度	中央經度	中央緯度	火星日付
7月2日	-2.1 ^m	21.50	0.976	308.38	-10.74	10月15日
4	2.1	21.85	0.979	290.37	10.52	17

6	2.2	22.18	0.983	272.40	10.29	19
8	2.2	22.49	0.986	254.48	10.05	21
10	2.3	22.78	0.989	236.59	9.80	23
12	2.4	23.06	0.991	218.74	9.54	25
14	2.4	23.30	0.993	200.93	9.27	27
16	2.4	23.52	0.995	183.14	9.00	29
18	2.5	23.70	0.997	165.38	8.73	31
20	2.5	23.86	0.998	147.64	8.46	33
22	-2.5	23.98	0.998	129.91	8.20	35
24	2.6	24.07	0.998	112.19	7.94	37
26	2.6	24.12	0.999	84.48	7.69	39
28	2.5	24.13	0.997	76.76	7.45	41
30	2.5	24.11	0.995	59.03	7.24	43
8 1	2.5	24.06	0.994	41.29	7.03	45
3	2.5	23.97	0.991	23.54	6.85	47
5	2.4	23.85	0.989	5.76	6.67	49

(伊達)

ナイロンと研磨機

多分空氣と石炭と石灰から作られると思はれる合成可塑物ナイロンは最近わが國でも問題になつてゐるように鋼鐵より強い合成纖維を作るが、他方非常に強靱かつ耐熱性の研磨機にも利用出来る事がわかつた。即ち金剛砂をナイロンと混せて高温高壓下に望みの形に作りあげた研磨機は從來のものに比し非常に優秀だといはれる。なほ之は特許を得たが直ちにデュボン會社に譲渡された。

編輯後記 七月號と云つても未だ新緑の候、初夏の五月に組立てたのだ。其の3日の皆既月食は、先月の告示に従つて、會員より種々に寫眞を送附していただいた。ページの都合上、一部來月廻しにした事を御了解願ひ度い。

長く北支、滿洲を視察、講演旅行中であつた會長も、一時の不快を全くとりもどし、すつかり元氣な顔色をして無事に歸洛された。御留守中には、二三の失態をした點、會長や會員諸氏に申譯ないと思つてゐる。次號からは會長が歸られたので、又、新しい生き生きした號になる事と思つてゐる。

向暑の節、末記乍ら會員諸氏の御健康を祈る。

(編輯員一同)